

令和4年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I. はじめに

尚絅学園は平成25年に向こう10年間の学園の中長期計画として「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」を制定し、その後、平成27年、平成29年、令和元年及び令和3年の計4回改定を行いながら、学園のビジョンの実現に向けて取り組んできました。今回の令和4年度事業計画書は、改定した「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」及び「中期財務計画」に基づき、中長期計画の総仕上げとしての諸課題への取組に加え、環境変化に伴う諸課題に適宜迅速かつ柔軟に対応し、着実に施策を実施するための年度計画になっています。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生・生徒等がよりよい環境で充実した学校生活を送るためには、経営力の強化による安定的でかつ強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の整備が必要不可欠です。

○経営力の強化

規律と誠実性を維持しつつ、学園を取り巻く環境変化に迅速に対応すべく、ガバナンス機能・組織マネジメントを更に強化し、組織力の結集強化に努めます。

情報公開を積極的に進め、学園の経営状況のさらなる可視化を図ってまいります。

○強固な財務基盤の構築

安定した収支バランスを確保・維持していくための実効性のある施策を立案し、着実に実施することで、強固な財務基盤の構築を目指します。

現状の経常収支を改善し、収支のバランスの適正化に向け、各設置校における定員充足率向上による学生生徒等納付金の増加、補助金の積極的な獲得、適切な人件費支出、教育の質向上に資する教育研究・管理経費等の支出に取組みます。また、予算執行については、コンプライアンスに基づき、厳正かつ正確な処理に努めます。

○人材育成の強化

学園・設置校に有為かつ適正な人員を確保しつつ、多様化する学生・生徒等への柔軟で的確な人材の育成を目指します。

その為に必要な人材育成計画の構築と有効な研修の計画的実施、教職員一人ひとりの資質・能力向上と職能開発の促進に努めます。

○施設設備及び教育・研究環境の拡充

中期施設整備計画に則り、教育・研究環境の拡充に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策、DX推進プロジェクトによるICT環境やインフラ整備に取り組めます。

(1) 経営力の強化

重点施策	具体策
1. ガバナンス強化と自律的な内部統制の充実 (1) 役員の職務と責任の明確化及び監事機能、評議員会機能の充実 (2) 「ガバナンス・コード」の遵守と自律的ガバナンス向上の推進 (3) 三様監査体制による監査機能の強化と内部統制の充実 (4) 次期中長期行動計画・中期財務計画・中期人員計画、施設設備計画等の策定	① 理事・監事・評議員それぞれの責任及び権限に関する点検の実施 ① ガバナンスコードに基づく大学・短期大学の機能点検と業務改善状況の検証 ① 内部監査室・監事・独立監査人との連携による内部統制の強化 ② 業務改善のための実効性のある監査機能の充実化促進 ① 次期中長期行動計画・中期財務計画・中期人員計画・中長期施設整備計画の策定
2. 組織マネジメントの強化と円滑なコミュニケーションの確立 (1) 法人部門と教学部門の連携強化及び組織マネジメント機能の発揮 (2) 規程の整備促進及び権限と責任の明確化による厳格な運用の実施 (3) 自己点検評価・外部評価を活かしたPDCAサイクルによる業務改善・業務執行の充実 (4) リーダーシップとボトムアップのバランスの確保	① 常勤理事会の定期的開催と内容充実による連携強化、及び各種会議による組織マネジメント強化 ① 各種規程と業務運用における整合性の点検及び見直し ② 学内規程と関連する法規との整合性についての点検及び見直し ① 自己点検評価及び外部評価による課題に対する業務改善の実施 ① リーダーシップによる業務遂行と円滑なコミュニケーションによる連携促進 ② 意見具申や提案しやすい環境の醸成と意識改革の推進
3. 積極的な情報公開と経営状況の可視化 (1) 規程等に基づく正確かつ適切な情報公開の実施と継続的な工夫の推進 (2) データとデジタルを活用した新たなツールや情報内容の促進 (3) 広報戦略の明確化と戦略的広報の展開	① 情報公開規程の遵守と情報内容の正確性、適時性の維持及び点検・工夫の継続 ① 学園のステークホルダーに対し、わかり易く、理解し易い情報の提供と経営状況の見える化の促進 ① 現在の広報体制における情報分析の見直しによる抜本的入試広報戦略の立案と持続的な展開 ② 他学や他校の広報戦略の調査・研究と新たな広報ツールや費用対効果を検討した広報手法の導入

<p>4. コンプライアンスの遵守と職場環境の改善</p> <p>(1) コンプライアンスに基づいた業務執行体制の確立と厳格な運用</p> <p>(2) 人権・人格に配慮しハラスメント等のない職場環境の確立</p> <p>(3) DXを活用した働き方や時間管理等の変革による職場環境の改善</p> <p>(4) 地球環境へ配慮した適切な業務の運用</p>	<p>① 行動規範の周知及び実践・遵守の徹底</p> <p>② 職員就業規則等諸規程の厳格な運用</p> <p>① ハラスメント研修の実施によるハラスメント防止対策と対処法の理解・認識の向上</p> <p>① 勤務形態の変化に伴う、DXを活用した職場環境の変革</p> <p>② 勤務時間内での作業効率の向上、時間外勤務の縮減並びに有給休暇取得の管理の厳格化</p> <p>① 熊本県SDGs登録制度に基づく持続可能な目標達成に向けた具体的取組の検討</p>
<p>5. 教職協働と組織力の結集</p> <p>(1) 委員会・会議体等の活性化と教職協働の推進</p> <p>(2) 中高大連携の強化による総合学園としての強みの発揮</p> <p>(3) 同窓会・後援会・保護者会の組織力の増強と設置校・法人との連携強化</p>	<p>① 委員会、会議体等の進捗管理と会議体の機能性についての点検</p> <p>① 中高大連携推進協議会による具体的な取り組みの制度化及び内部進学強化</p> <p>① 各設置校における同窓会組織との連携強化および設置校と法人との相互協力体制の構築</p>

(2) 強固な財務基盤の構築

重点施策	具体策
<p>1. 安定した財務基盤の確立と将来に向けた着実な施設設備積立の実現</p> <p>(1) 中期財務計画及び厳格な財務運営の実現</p> <p>(2) 施設設備計画の妥当性・計画実現性を考慮した施設設備資金積立の実施</p>	<p>① 中期財務計画に基づく財務運営の検証と、適正な収支バランスへの取組</p> <p>① 施設設備計画の妥当性・実現性を考慮した施設積立の検討</p>
<p>2. 収支バランスの確保と筋肉質な財務体質への転換</p> <p>(1) 学生生徒等の定員未充足の解消</p> <p>(2) 補助金等の確実な獲得と競争的資金への積極的な応募</p> <p>(3) 収入の多様性を図るための外部資金や寄付金等への取組の促進</p> <p>(4) 経費支出の厳正な検証と抜本的な削減・見直しの実施</p> <p>(5) 新型コロナウイルス感染症対策、DX等費用への対応</p> <p>(6) 予算編成の堅確化と予算内運用の厳正化の促進</p>	<p>① 学部学科・各設置校各々による定員充足の為の企画立案とその推進</p> <p>① 一般補助金及び特別補助金の獲得に向けた情報収集と積極的取組の実施</p> <p>① 尚綱学園創立130周年記念募金第2期 (R3/4～R5/3) 募集の継続</p> <p>② 古本募金募集の継続と拡大への取組</p> <p>③ 科研費等外部資金の獲得に向けた情報収集等の活動促進</p> <p>① 経済性・有効性を踏まえた適正な予算執行の検証と予算外執行への厳格な対応</p> <p>② 各設置校毎の収支状況分析による改善策の検討</p> <p>① 新型コロナウイルス対策費用やDX推進費用等への補助制度の情報収集</p> <p>① 予算編成の堅確化と予算内運用の徹底</p>

(3) 人材育成の強化

重点施策	具体策
<p>1. 人事政策と人事管理・労務管理体制の確立</p> <p>(1) 人事管理・労務管理体制の強化と多様な人材登用に対応するための体制整備</p> <p>(2) 適材適所への配属と必要妥当な人員配置の実現</p> <p>(3) 就労体制の見直しとDXに基づく業務変革の推進</p> <p>(4) 公平性・公正性・納得性のある人事評価の確立と適正な処遇への反映</p>	<p>① 人事・労務管理者に対する外部研修への積極的参加の促進</p> <p>② 採用方法及び採用基準等の見直しと実施</p> <p>① 自己申告書の活用による適材適所への人員の配置</p> <p>② 業務量及び業務経験に基づく適正配置の実施</p> <p>① 「働き方改革」等の労働関係法改正に伴うDXの活用と推進</p> <p>① 人事評価における面談・フィードバックの実施による能力開発と意欲の創出</p> <p>② 公平性・公正性・納得性のある人事評価制度の継続と改善</p>

<p>2. 教職員の資質・能力向上と職能開発の促進</p> <p>(1) 人材育成計画の構築と有効性のある研修体制の確立</p> <p>(2) 全学的なFD・SDの活用及び教職員の組織運営への積極的な参画の醸成</p>	<p>① 業務内容に直結する研修の実施</p> <p>② 経験年数等に応じた階層別職員研修の実施</p> <p>① SD・FDの内容の充実及び参加率の向上</p>
---	---

(4) 施設設備及び教育・研究環境の拡充

重点施策	具体策
<p>1. 環境変化に対応した教育・研究環境の充実</p> <p>(1) 施設設備の点検強化と既存施設設備の有効活用</p> <p>(2) バリアフリー化や安全・安心を担保した施設設備拡充</p> <p>(3) 高度情報化やグローバル化にも対応した快適な教育研究環境の実現と学外利用の促進</p>	<p>① 既存設備の定期的な点検の実施</p> <p>② 武蔵ヶ丘キャンパス新学部設置に備えた改修工事の実施</p> <p>③ 既存施設整備の利活用の検討</p> <p>① 施設設備点検によるバリアフリー化の検討</p> <p>① 「尚綱DX推進プロジェクト」に基づくICT教育環境の充実及びグローバル化に対応する教育設備の検討</p> <p>② コロナ感染症に対応した遠隔授業や教育学修環境の整備促進</p> <p>③ 学外に向けた既存施設の利活用の検討</p>
<p>2. 危機管理態勢の強化とインフラ整備の促進</p> <p>(1) 危機管理体制の検証・見直しと機動性・有効性を担保した危機管理体制の確立</p> <p>(2) 情報システムに関する危機管理体制の整備とインシデント対応の強化</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症対応を含め、防犯・防災・減災体制の確立と備蓄等のインフラ整備の促進</p>	<p>① 危機管理委員会主導による危機管理体制の検証と見直し</p> <p>② 危機事象に対する危機管理体制の実効性と機動性の検証</p> <p>③ 「尚綱DX推進プロジェクト」施策等に基づく危機管理体制や緊急時の組織体制の見直し</p> <p>① 情報システム管理体制の点検と見直し</p> <p>② インシデント対応の即時性の構築と検証</p> <p>③ 情報セキュリティ教育の強化</p> <p>① 具体的な防犯・防災・減災体制の見直しとインフラ整備の推進</p> <p>② コロナ感染症に対応した衛生管理と防疫体制の整備</p>
<p>3. 将来構想とそれに基づく施設設備計画の立案</p> <p>(1) 将来構想の具体化</p> <p>(2) 財政的リソースを伴った施設設備計画の立案</p>	<p>① 学部・学科の改組等将来に向けた施設設備の拡充促進計画の立案</p> <p>① 将来構想に基づく中長期施設設備計画の策定</p>

2. 尚綱大学・尚綱大学短期大学部

令和4年度は、「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」の最終年度に当たり、スピード感をもって積み残された課題に取り組むとともに、10年間の成果と課題を明らかにし、変化する時代に相応しい第2期の「中長期計画」を作成します。

本学の課題である入学定員の確保については大きく後退しており、全力で入学定員充足率の上げを図ります。そのために、高校生及び社会のニーズに即応した入試広報体制の整備に努めるとともに、各学部・学科の独自性を生かした魅力度アップに取り組みます。教育と学修については、対面授業を基本にしつつ遠隔授業のよいところやDXなどを取り入れ、学修成果の見える化や学修効果の得られる学修環境の整備に引き続き取り組みます。

研究については、引き続き、産学官の連携に基づく共同研究の推進、外部資金の獲得及び研究倫理の遵守に取り組めます。社会連携に関しては、尚綱食育研究センター、尚綱子育て研究センター、尚綱ボランティア支援センターの活動を活性化するとともに、尚綱地域連携推進センターの機能強化を図り、社会的貢献の諸活動を推進し、本学の地域社会での存在感をさらに高めます。また、尚綱食育推進プロジェクトやくまモン学プロジェクトについては、組織の充実を図りながらさらに研究活動を推進し、研究成果を発信します。グローバル化推進については、現地での学びや交流に加え、オンラインを有効に活用することにより、一層の推進を図ります。

IR及び自己点検に関しては、内部質保証の課題に適切に対応できるよう、委員会の設置等体制を整え、PDCAサイクルが効果的に回るよう努めます。

(1) 教育と学修の充実

重点施策	具体策
1. 質の高い教育の実施	
(1) 建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進	① 全学共通科目の新規科目の検討及び、既存科目の教育効果の検証と改善 ② 基礎セミナーの教育効果の検証と改善
(2) 教育方法及び教育体制の点検と改善	① シラバス記載内容のチェックと改善 ② 学生代表者の参画による点検・評価 ③ 状況に応じたオンラインと対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業の実施 ④ アクティブ・ラーニング型授業の実施 ⑤ 数理的思考やデータサイエンスに関する授業科目の配置 ⑥ 合同開講授業の検討及び推進 ⑦ グローバル教育の推進と外国語学修支援のあり方の検討
(3) 教育課程の点検と改革	① 全学的な教養(教育)科目や初年次教育の検証と改善 ② 履修系統図(カリキュラムマップ)作成による全授業科目の体系的・有機的連携の検証
(4) FD及びSD活動の推進	① オンラインによる授業改善アンケートの実施 ② オープンクラス・ウィークの実施 ③ FDに関する学生の代表または学外者からの意見聴取 ④ 学内研修会の開催 ⑤ 学外研修会への積極的参加
(5) 実務家教員他多様な人材の登用	① 実務家教員の積極的な登用 ② 様々な専門分野の外国人教員採用の検討
(6) DX推進に向けた取組の検討・開始	① ICT教育実践教員への聞き取りや他学での実施状況の調査及び、それらを基にしたICT活用法の検討 ② DXにより得られた学習成果の評価・分析方法の検討
2. 学修支援と学修成果向上への取組の実施	
(1) 免許・資格取得のための教育課程・指導体制の整備	① 生活科学部および幼児教育学科の教職課程の定期的な見直し ② 教職課程の実地視察への準備及び対応
(2) 学修成果の計測・評価・情報公表	① ディプロマサブリメント(評価マトリックス等)の作成及び配布 ② アセスメント・チェックリスト等を用いた学修成果の可視化・情報公開の検証
(3) 学修支援の強化及び学修成果の向上による授業満足度の向上	① 学修支援センターにおける基礎学力強化支援 ② 学修支援センターにおける教育内容の検証及び改善 ③ オフィスアワーの周知とオフィスアワーによる指導の強化 ④ Google Classroomや電子メールを活用した質問のしやすい環境の整備

## (2) 学生の確保

重点施策	具体策
1. ニーズに応じた体制の整備と多様な学生の確保	
(1) ニーズ調査及び分析を踏まえた学部・学科の改組及び学部設置等の検討と取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 履修者数の実績や専門領域での教育内容を踏まえた授業科目の改廃、学部の魅力向上に寄与する新たな資格取得等に関する検討</li> <li>② 履修科目の見直し及び学部関連資格の検討・資格取得支援の強化</li> <li>③ 「健康運動実践指導者」資格やその他の資格導入の検討</li> <li>④ 調理系資格(家庭料理技能検定等)の導入に向けた検討の継続(アンケート調査等)</li> <li>⑤ こども教育学部設置認可に係る申請手続きと学生の確保の検討と実施</li> </ul>
(2) 入試方法の評価と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大学入学者選抜改革の趣旨を踏まえた対応策の検討と実施</li> <li>② 「学力の3要素」について多面的・総合的に評価できる入試方法の検証と改善</li> <li>③ アドミッション・ポリシーに則した多様な入学者選抜方法の実施と改善</li> <li>④ 長期的、全学的観点からの入試戦略の策定と実施</li> <li>⑤ 入試ミスの発生余地を極小化した入試実施策の策定と実践</li> <li>⑥ 大学と短期大学部、学部学科間の各種運用策統一化</li> <li>⑦ 地方試験におけるオンライン面接の検証と改善</li> <li>⑧ Web出願への完全移行の可能性検討</li> <li>⑨ 数理的思考やデータ分析などに関する試験問題「数学」、「情報」の可能性検討</li> <li>⑩ 特定の科目に限定せず「思考力・判断力・総合的」を評価する記述式問題の可能性検討</li> </ul>
(3) DX推進を含めた入試広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 高大接続を踏まえた情報提供型の広報イベントの充実拡大</li> <li>② Webを含めたオープン・キャンパスの実施時期・実施内容の検証と改善</li> <li>③ DXを活用した非集合型・非対面型による入試情報に関する広報の検討と実施</li> <li>④ 有効なソーシャルメディアネットワークの活用策の策定と運用</li> <li>⑤ 奨学金制度の拡充と周知による志願者増加策の実施</li> <li>⑥ 広域広報活動と地方試験拡大の可能性検討</li> <li>⑦ DXを活用した双方向型による入試広報の充実拡大</li> <li>⑧ 志願者動向等のデータ共有・分析による戦略的な入試広報の実施と改善</li> <li>⑨ 競合校との比較による差別化戦略の検討と実施</li> <li>⑩ 新学部に関する周知広報</li> </ul>
(4) 社会人入学生受入れの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会人入学生に対する奨学金(給付型)制度の周知広報</li> </ul>
(5) コロナ後の正規留学生受入れの検討と実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>① コロナ後の正規留学生受入れ是非の検討</li> <li>② コロナ後の海外における志願者募集方法の検討</li> <li>③ 外部検定等を利用した入学者選抜方法の検討</li> </ul>
(6) 高大連携の推進と内部進学率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 高大接続を踏まえた入学者選抜方法の検討</li> <li>② 学修支援(受験前教育)等による信頼関係の構築</li> <li>③ 高校等への出前授業・進学ガイダンスの実施</li> <li>④ 内部進学率の向上を目的とした尚綱高校に対する出前授業等取組の実施</li> <li>⑤ 高校との教職員同士による合同研修や協議体制の構築</li> </ul>
(7) 同窓会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 連携強化と志願者情報の収集・提供等の拡大</li> </ul>
(8) 奨学金制度の創設	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 給付型入試奨学金の拡充と改善</li> <li>② 減免型予約奨学金の検討</li> </ul>

## (3) 学修環境の整備

重点施策	具体策
1. 安全で快適な学修環境の整備	
(1) 教育施設のバリアフリー化を含む整備と新型コロナウイルス感染症対策を考慮した安全管理の実施	① 第二調理実習室などの改修 ② 劣化した空調設備の更新 ③ 実験室のアース付コンセントへの改修 ④ 3号館破損したカーテンの取替 ⑤ 障がい等特別支援を要する学生に対する環境整備 ⑥ 教室・事務室照明のLED化検討 ⑦ 劣化した空調機器の移設による取替え ⑧ 体育館の換気扇風機の設置 ⑨ 学生ロッカー室の更新検討
(2) 学生の心身の健康維持・向上及び特別支援を要する学生への支援	① 障がいを有する学生の障がい状況等に応じた適切な支援 ② 保健室・カウンセリング利用状況調査の活用 ③ 疲労蓄積度調査の集約及び活用、質問項目見直しにむけての検討 ④ 学生生活実態調査の集約及び活用、質問項目見直しにむけての検討 ⑤ 新たな学生相談体制構築のための検討
(3) 図書館の整備と図書館活用の推進	① 図書館資料・情報資源の充実と適切な収集・管理 ② 図書館資料・情報資源及び図書館施設・設備の利用促進 ③ 図書館利用環境の改善 ④ 定期的な蔵書の点検
(4) 防犯・防災のための危機管理体制の整備と強化	① 学生及び教職員に対する消防訓練などの実施 ② 防災・防犯対策用品の整備 ③ 教職員に対する防犯・救急措置法などの講習実施
(5) DX社会に対応した情報環境の整備	① 無線環境の整備・展開
(6) ハラスメントの防止	① 学生生活実態調査の集約 ③ ハラスメント防止ガイドライン及び相談窓口の周知 ④ 教職員に対する研修 ② 保健室・カウンセリングの学生相談状況調査の活用

## (4) 学生支援の充実

重点施策	具体策
1. 学生生活に対する支援	
(1) 学生生活満足度の向上に向けた取組	① 昨年度改訂したアンケート調査内容ならびに調査方法の再検証と改善 ② アンケート結果分析を踏まえた学生満足度改善策の実施
(2) 中途退学防止への取組	① 現状分析と中途退学者防止策の検討 ② 問題の早期発見に向けての観察の強化及び情報の共有 ③ 障がい等特別支援を要する学生への支援 ④ 退学防止の為に用意されている支援策・制度の学生への周知を徹底
(3) 学納金の免除・減額制度導入の検討	① 学納金免除・減額制度の適切な運用体制の充実
(4) 奨学金・表彰制度の充実	① 奨学金制度の現状を分析し、学生のニーズにあった制度を構築 ② 表彰制度の内容の検討、学生への周知 ③ 学生への各種奨学金の周知
(5) 学生寮(如蘭学寮)の整備と管理	① ピアノ練習環境の改善策検討 ② 脱衣所(風呂場)の空調機器設置の検討
2. 自治的活動の活性化に対する支援	
(1) クラブ・サークル活動活性化の支援	① クラブ・サークル活動費使用等に対する助言と支援 ② クラブ・サークル活動の実態把握と活動に関するサポート ③ クラブ・サークル広報の強化 ④ クラブ・サークル室の環境整備 ⑤ コロナ禍で活動の危機にある学生自治会活動の支援
(2) ボランティア活動の支援	① ボランティア支援センターの周知 ② ボランティア活動の多様化・活性化 ③ ボランティア募集情報の広報強化の検討 ④ ボランティア活動保険の周知及びその加入支援
(3) 尚綱祭の支援	① 尚綱祭に対する助言と支援

<p>3. キャリア形成・就職支援</p> <p>(1) 教職協働でのキャリア形成、就職・進路支援活動の充実強化</p>	<p>① 学科に応じた適正な「就職・進路指導」計画の充実と確実な実施、検証</p> <p>② WEB面談等コロナウイルスの影響を考慮した就職指導の強化</p> <p>③ 個別面談等による就職未内定者に対する支援の強化</p> <p>④ インターンシップ、会社訪問、企業研究、合同会社説明会等への参加の推進</p> <p>⑤ 夏季及び春季のキャリアガイダンスの充実と委員会等への報告及び検証</p> <p>⑥ 「就職懇談会」の充実と委員会等への報告及び検証</p> <p>⑦ 「就職筆記試験・公務員試験対策講座」の安定的開講と受講者の継続的支援</p> <p>⑧ 「日商簿記検定3級講座」の安定的開講と受講者の継続的支援</p> <p>⑨ 保護者向け情報発信の強化による保護者と学生との連携の緊密化</p> <p>⑩ 「求人のお願ひ」の送付及びキャリアタスUCへの登録促進による求人数の増加</p> <p>⑪ 学生の就職活動支援のための「就職の手引き」の作成及び電子化</p>
--	---

(5) 研究力の強化

重点施策	具体策
<p>1. 研究倫理の遵守</p> <p>(1) 研究倫理の遵守のための諸活動の推進</p>	<p>① 研究倫理に関する諸規程の内容の確認及び教職員各自の役割の確認</p> <p>② 研究活動の不正防止のための研究倫理教育の実施</p> <p>③ 競争的資金等の運営・管理に関する不正防止計画の策定</p> <p>④ 競争的資金等使用ハンドブック2022の作成と配布</p> <p>⑤ 競争的資金等の運営・管理に関する不正防止計画の策定管理に関するコンプライアンス教育の実施</p>
<p>2. 研究力の向上と研究活動の活性化</p> <p>(1) 教員の研究力の向上と研究活動の活性化</p> <p>(2) 研究環境の整備</p> <p>(3) 尚綱子育て研究センターの研究力向上と活動の活性化</p> <p>(4) 尚綱食育研究センターの研究力の向上と活動の活性化</p>	<p>① 外部資金導入による研究の質向上と産学官連携に基づく共同研究の推進</p> <p>① 研究設備・機器の計画的購入・更新・整備</p> <p>① 乳幼児保育研究会の定例開催と保育現場と共同した実践研究</p> <p>② 附属こども園との連携(発達支援、保育・教育に関する研究)</p> <p>③ 尚綱食育推進プロジェクトへの協力・連携</p> <p>④ その他、保育・子育てに関する調査・研究</p> <p>⑤ 『児やらい』第19巻の発行、学園Webによる情報発信</p> <p>① 天草地区漁業士会との連携による尚綱食育の日の実施</p> <p>② 熊本の郷土料理の料理教室</p> <p>③ 郷土料理啓発活動(パネル展示とオンラインアンケート)の実施</p> <p>④ 学食レシピコンテストの実施</p> <p>⑤ 尚綱食育シンポジウムの開催</p> <p>⑥ 尚綱乳幼児食育研究会の開催(保育現場の食育推進と安全な給食提供の実践的研究)</p> <p>⑦ 附属こども園と連携による食育プログラムの検証及び策定</p>
<p>3. 研究費の効果的配分と外部資金の獲得</p> <p>(1) 研究経費の効果的配分</p> <p>(2) 外部資金獲得の支援</p>	<p>① 科研費の申請状況に基づく特別研究費の傾斜配分</p> <p>② 学内共同研究への特別研究費の配分</p> <p>① 外部資金に関する情報の提供と講習(研究費獲得の経験談を含む)の実施</p>

(6) 社会連携の拡充

重点施策	具体策
<p>1. 産学官民との連携</p> <p>(1) 尚綱子育て研究センターの地域連携と地域貢献</p> <p>(2) 尚綱食育研究センターの地域連携と地域貢献</p>	<p>① 保育の質向上及び保育者の早期離職予防としての相談支援、交流会「保育カフェ」の開催</p> <p>② 附属こども園子育て支援室との連携による地域子育て支援・相談、交流会「子育てカフェ」の開催</p> <p>③ ひとり親世帯・生活の厳しい世帯の子どもと親への専門性を活かした相談支援(シンママ熊本応援団・こどものゆめまもる基金等、他子ども食堂・子育て支援団体等との連携による支援活動・調査研究)</p> <p>④ 第21回公開シンポジウムの開催</p> <p>⑤ 第8回保育実践講演会の開催</p> <p>① 熊本市子どもの食育ネットワーク研修会への協力</p> <p>② 自治体等が開催する各種イベントへの参加協力</p> <p>③ 自治体や企業へのレシピ提案等による地域貢献</p>

<p>(3) 尚綱ボランティア支援センターの地域連携と地域貢献</p> <p>(4) 尚綱地域連携推進センターによる地域連携の推進</p> <p>(5) 大学コンソーシアム熊本を活用したプラットフォームの形成</p>	<p>① 地域社会と連携したボランティア活動の企画・実施</p> <p>① 連携を教育・研究・広報に活かすため全学科および3センターとの密な情報共有</p> <p>② 包括協定先との定期的な情報交換・共同事業の実施</p> <p>③ 産学連携を念頭に企業等との協定・連携を推進</p> <p>④ 東海大学九州キャンパスとの協定活動の推進・支援</p> <p>⑤ マンガ・アニメを通じた地域おこしへの協力関係の構築(くまもとマンガ協議会, 高森町(高森高校に新設されるマンガ関連学科), 湯前町(湯前まんが美術館)など)</p> <p>⑥ 「くまモン学プロジェクト」への協力</p> <p>⑦ 武蔵ヶ丘近隣6校区長との定例会議の開催</p> <p>① プラットフォーム(PF)への参画及びPFの中期計画に対応した取組み ○PFの事業の方向性(①高等教育機関の教育・研究の充実のための基盤整備、②地域の行政や産業界との連携、③地域社会の教育・文化の向上・発展、④教育環境の向上)に基づき、PFが定めた達成目標(アウトカム指標)及び活動指標に対応する本学の数値目標を目標管理表に記載</p>
<p>2. 本学が有する資源の地域社会への還元</p> <p>(1) 公開講座の開催</p> <p>(2) 高大連携の推進</p> <p>(3) リカレント教育の推進</p> <p>(4) 学校施設等の開放</p>	<p>① 尚綱公開講座、サマーセミナーの開催</p> <p>① 高大接続を踏まえた大学の知的資産の地元高校、高校生への還元</p> <p>② 高大連携・広報戦略としての学修支援(出前講座)等による信頼関係の構築</p> <p>① リカレント教育の実施状況の把握と検証</p> <p>① 近隣住民、公開講座参加者、卒業生、子ども園保護者等への図書館利用の活性化の推進</p> <p>② 利用希望者への体育館、教室当施設の開放促進</p>
<p>3. 同窓会との連携</p> <p>(1) 同窓会との連携によるホームカミングデイの実施と改善</p>	<p>① 来場者増加に向けた検討</p> <p>② 各学科における事業内容の検討</p>

(7) 国際交流の体制整備と拡充

重点施策	具体策
<p>1. 海外の教育研究機関との連携</p> <p>(1) 国際交流に関する基本方針の策定と体制整備の強化</p> <p>(2) 既存の提携教育研究機関とのさらなる連携の強化</p> <p>(3) 新たな教育研究機関との交流協定締結等の検討</p>	<p>① 全学部学科に亘る国際交流のあり方検討と、そのためのグローバルラウンジ活用策の検討</p> <p>① 交流協定締結校との教職員の派遣・受入や共同研究を通じた連携強化の検討及び推進</p> <p>① アメリカ等英語圏の教育研究機関への短期語学留学の実施に向けた整備</p>
<p>2. 交換留学生の派遣と受け入れ</p> <p>(1) 交換留学生の派遣と受入の適切な実施</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた、交換留学生の安全な派遣・受入の検討と、オンラインを活用した事前事後交流の検討及び促進</p>

(8) IR機能強化と自己点検・評価への適切な対応

重点施策	具体策
<p>1. IR機能の強化</p> <p>(1) 大学企画室機能の充実と強化</p>	<p>① IR活動の推進</p> <p>② 大学・短期大学部事業計画の進捗管理</p> <p>③ 情報コンテンツを利用した情報発信及び大学広報の強化</p> <p>④ Data Bookの改訂・活用</p> <p>⑤ 各種アンケートに関する企画・実施・分析・公開</p>
<p>2. 恒常的な自己点検・評価システムの構築と実施</p> <p>(1) 自己点検・評価の定期的実施・公表</p> <p>(2) 外部評価委員会の設置と運営</p> <p>(3) 第3期認証評価への適切な対応</p>	<p>① 自己点検・評価規程及び機関別認証評価基準に基づく自己点検・評価の実施</p> <p>① 規程に基づく委員会の開催と運営</p> <p>② 評価結果の事業計画書への反映</p> <p>① 特記事項の設定</p> <p>② 第3期認証評価に関する教職員のスキルアップ</p>
<p>3. PDCAサイクルの確立</p> <p>(1) PDCAサイクルの確立と徹底</p>	<p>① 新たな内部質保証システムの確立</p> <p>② 学修成果可視化の確立</p>



### 3. 尚絅中学・高等学校

令和4年度は、コロナウィルス感染拡大防止による環境変化、また、それに伴う教育活動の変化、今年度より実施される新学習指導要領に基づいた授業展開など目まぐるしく変化する教育界において、今までの事業計画を踏まえて、さらなる事業内容の充実と新しい事業の取り組みを以下のように策定しました。

- (1) 特色ある教育の確立については、「建学の精神」「教育理念」を基に、新しい生活様式の中、様々な取り組みを通して知識・技能・思考力等のバランスの取れた生徒の育成に努めると共に、DXの推進、また生徒の学力向上及び教師の指導力アップを念頭に置き、生徒が満足する教育活動に取り組みます。また、知育・徳育・情操教育を中心に女子教育の充実を図り、これからの新しい社会に向けて必要な能力が身につく取り組みを行い、グローバルな社会で活躍できる人材育成を目指します。
- (2) 教育の質向上については、生徒に「何ができるようになるか」という具体的な目的を明確に示すことにより「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒が自ら考えるような授業展開を行います。その為に新学習指導要領に対応したカリキュラムを確立するとともに、今年度高校入学生より購入するタブレットを用いた授業内容や教育の質の向上のためのプログラム作成、また、オンライン学習の研究を深め、新しい生活様式を取り入れながら学校行事や課外活動、広報活動に取り組みます。また、生徒の将来に深く関わるキャリア教育の充実を努め、これからの社会で活躍するために必要となる資質の向上を目指した人材育成に努めます。
- (3) 生徒支援の確立については、令和2年度に改正された就学支援金制度の内容を視野に入れて、生徒が安心して学べるように経済的に就学困難な生徒への各種制度を充実させると共に、育友会・同窓会・後援会との連携を一層深めて生徒の日常の学業・課外活動等の支援体制を整えます。
- (4) 地域貢献の充実については、社会のニーズに応じて環境活動や地域社会に積極的に参加できる人材を育成すると共に、地域に開かれた学校として学校の特色を活かした地域の行事への参加、ボランティア活動、及び各種大会を主催して地域への活性化に貢献します。
- (5) 学習意欲あふれる生徒の確保については、女子の総合学園として短大・大学への内部進学を希望する生徒の募集に力を入れると共に、様々な生徒を広く受け入れるためにコース毎の魅力を再検討します。公立小学校・中学校に加えて学習塾や地域、生徒・保護者広報部との連携を深め、広報活動の充実を図ります。
- (6) 学校評価の意義と目的を全職員が理解して、学校運営に反映させ、より良い学校作りに活かします。

#### (1) 特色ある教育の確立

重点施策	具体策
1. 人間教育プログラムの充実 (1) 外部人材・事業の活用  (2) グローバル教育の充実  (3) 礼法教育の確立 (4) 諸活動のPDCAサイクルの確立	① 講演会、学年別講話、各種研修会等における公的機関等の人材活用 ② オンラインを活用した進路講演会、進路ガイダンスの実施 ① 留学生を受け入れ、生徒間の交流による異文化交流の実践 ② 長期留学生の受け入れと本校生徒との交流の推進 ③ オンライン留学及びデジタル技術の活用による海外研修の推進 ④ グローバルなテーマに関するスピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、エッセイの実施 ① 外部指導者による生徒対象の礼法教育研修および研修制度の確立 ① 学校行事・学年・コース行事等を中心にPDCAサイクルの確立 ② クラウドを介した生徒諸活動のまとめと教員側の確認および助言
2. 魅力ある授業の確立 (1) 教科指導力の向上  (2) 授業改善の確立  (3) ICT教育の充実	① 外部教科研修会への参加及び校内授業研究の実施 ② 教科指導力向上の為の教員能力試験の実施 ③ 各教科で指導力向上の為の案を検討 ① 指導力向上のための授業研究 ② 授業アンケートの実施と結果検討会の実施 ① 高校1年生の一人一台端末導入(BYAD方式)の運用と、iPadを利用した教育内容の充実 ② 外部講師による研修および積極的にICT教育に取り組んでいる職員による研修会を定期的の実施 ③ Classi等を活用した生徒の校内外における活動記録の作成促進や、ロイノートを活用した進路学習の実施 ④ 生徒によるICTを活用した課題研究発表の実施 ⑤ 各教科によるICTを活用した授業研究、研修、研究授業の実施
3. 進路指導の充実 (1) 進路指導力の向上  (2) 進路研修会の充実	① 受験指導研修会等への積極的参加の促進 ② キャリア教育と探究活動の融合を中心とした進路指導の研究  ① 大学入試制度の研究 ② 保護者のニーズに応じた進路研修会の実施 ③ 模試検討会の実施

(3) 進路実績の向上	① 入試選抜に応じた受験指導の強化 ② 模擬試験の成績データと入試結果データとの分析と蓄積 ③ 職員の進路指導力向上、授業力向上の具体的取組の実施
(4) 課外授業の確立	① 課外の実施とその効果的な方法の検討 ② 受講生徒の学力推移の調査と検討会の実施
(5) 個別指導の強化	① 模擬試験成績や入試志望先に応じた個別指導の充実 ② 学級担任と教科担当者の情報交換の推進と強化 ③ 総合コースの低学力生徒の長期・計画的個別指導の計画と実施 ④ 成績上位者のDXを活用した個別添削指導の強化
(6) 進路指導体制の研究と実践	① 大学入学共通テストおよび一般選抜対策の充実と強化 ② 成績上位対象者のコース合併授業の実施と充実
4. 各コースの特色づくり (1) 各コースの教育内容の研究と実践  (2) 特色あるカリキュラム・選抜クラスの充実  (3) 各種検定試験の充実	① 生徒の実態をふまえたクラス編成の検討 ② 各コースの特色を活かした土曜日のあり方検討及び研究 ③ 総合コースの医療・看護系クラスの設置準備と各コース内容の検討と確立 ① 基礎学力の確立および「総合的な探究の時間」の充実 ② 総合型選抜および学校推薦型選抜に対応した指導体制の確立と充実 ③ 「総合的な探究の時間」の充実 ① 受験時における各種検定取得の有用性に関する情報の発信 ② 各種検定試験の検討
5. 中高大連携の強化 (1) 内部進学達成 (2) 高大進学連絡会の充実  (3) 中高大連携事業・授業の確立  (4) 広報活動の連携強化	① 中学・高校・大学における相互の情報交換の推進と強化 ① 大学の各学部学科および入試センターとの日常的な情報交換および連携の推進と強化 ① 中高大連携事業および授業の内容検討  ② 韓国語講座・アニメを中心とした魅力配信の推進 ① 広報戦略の見直しと外部業者との連携 ② 学校訪問や塾訪問、入試説明会などの情報交換と資料提供 ③ 迅速かつ正確な進路実績等の情報提供 ④ 保護者広報部との連携

(2) 教育の質向上

重点施策	具体策
1. 主体的・対話的で深い学びの授業の確立 (1) 教科の特質を活かした取り組みの研究と実践 (2) 言語能力の確実な育成  (3) 教科の横断的な学習の充実	① 授業アンケートの結果をもとに教科ごとの授業研究および実践報告 ① DXを活用した情報の処理能力の育成 ② 言語運用能力を高める教育活動の工夫 ③ スピーチ・弁論・ディベート等の校内大会を実施 ① 教科の枠を超えた授業観察及び研究会の実施 ② 教科を横断した小論文、ディスカッション、プレゼンテーション指導の実施
2. カリキュラム・マネジメントの研究と取り組み (1) 社会に開かれた教育課程の研究 (2) 理数教育の充実 (3) 伝統や文化に関する教育の充実 (4) キャリア教育の充実	① 大学コンソーシアム講義、熊大ワクワク講義などへの参加推進 ① 理数教育に関する研修会への積極的参加 ① 和装礼法を中心とした外部講師によるマナーの習得及び実践 ① 「総合的な探究の時間」の内容の充実と強化 ② 「キャリア・パスポート」の研究と実施内容の精査 ③ 進路サポート、進路ガイダンスの活用
3. 主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実 (1) 主権者教育、消費者教育等の充実  (2) ホームルーム活動、特別活動の充実	① 人権講話の実施および生徒・職員・保護者への情報提供の徹底 ② 家庭学習期間中における講座の実施 ① ホームルーム計画に則り、各学年・クラスの特徴を活かした活動の研究 ② ホームルーム活動・特別活動のプレゼンテーションの実施

## (3) 生徒支援の確立

重点施策	具体策
1. 奨学生制度・表彰制度等の活用 (1) 制度を活用した生徒の支援	① 各種奨学生の選考 ② 尚綱学園育英褒賞の選考 ③ 桜会奨学生の選考
2. 課外活動の充実 (1) 生徒会活動の充実  (2) 部活動の充実 (3) ボランティア活動の強化  (4) リーダー養成の活発化	① 委員会活動の促進と学校行事の見直し ② 自主的な取り組みの検討 ① 各部の活性化への取り組み ① ボランティア活動の内容検討及び活性化 ② ボランティア活動報告会の推進 ③ Zoomでの全校集会やClassiによるボランティア活動案内や報告会の実施 ① 定期的な委員会の開催
3. 教育相談の充実 (1) 生徒支援体制の確立    (2) カウンセリングの充実   (3) 外部組織・人的支援の活用	① 生徒情報共有の職員研修の実施 ② Classiによるリアルタイムな生徒情報共有 ③ 入寮生徒の支援の充実 ④ 入寮生徒へのカウンセリングの実施 ⑤ 入寮生徒の保護者会の実施 ⑥ 教育相談の実施及び内容の充実 ① カウンセラーを中心とした連携強化及び指導方法の共有の徹底 ② 外部カウンセラーの配置と連携強化 ③ カウンセリングを中心とした職員研修の実施 ① 保護者の希望によるスクールカウンセラーを囲む座談会の実施 ② 熊本県の派遣事業を利用したSSW、相談員との連携
4. 育友会・後援会・同窓会との連携の確立 (1) 学校行事での連携強化  (2) 保護者会の充実 (3) 同窓会・後援会総会等への出席の確立	① 入学式・卒業式、体育祭・文化祭、ホームカミングデイ、尚綱コンサートなどの行事を連携して実施 ① 学期毎の保護者会・学級懇談会・授業参観・講演会の実施 ① 管理職を中心に各行事に参加

## (4) 地域貢献の充実

重点施策	具体策
1. 地域活動の支援 (1) 部活動等の合同練習会開催の確立 (2) ボランティア活動の充実	① 各部活動による立案及び実施 ① フードバンク、地域ボランティア等の積極的な参加推進  ② Classi等を活用した参加生徒への案内配信
2. 学校主催事業の充実 (1) 本校主催の各種大会の開催	① 小学生英語暗唱大会の開催と内容の再検討

## (5) 学習意欲あふれる生徒の確保

重点施策	具体策
1. 広報活動の充実 (1) 活動内容の再検討  (2) 広報部員のスキルアップ (3) ホームページの充実  (4) 全職員対象研修会の確立  (5) 広報部の組織改革の確立 (6) 入試内容の検討	① DXを活用した非集合型・非対面型による入試情報に関する広報の検討と実施 ② 志願者動向等のデータ分析による戦略的な入試広報の実施と改善 ① 外部業者による研修会の実施 ① 迅速かつ正確な情報提供と内容の充実 ② 動画など新たなコンテンツの開拓 ① 募集活動を中心とした私学教職員に求められる資質等の研究 ② ビジネスマナー等の講演会参加 ① 明確な募集の数値目標と改善項目の設定に基づいた活動の実施 ① 入試問題の研究や面接試問内容の検討

(7) 小学校・中学校・学習塾・個別訪問活動の充実	① 担当職員の配置と全職員による定期的な訪問活動の実施 ② 小・中学校・塾訪問の見直し
2. 入試制度の改革と訪問の強化 (1) 制度の周知徹底 (2) 特待生制度を活用した学力・特技に優れた生徒獲得の確立 (3) 指導者との連携の強化 (4) 入試制度の検討と充実	① 市場リサーチをもとに制度の周知徹底 ① 広報部・部活動顧問による勧誘活動の強化 ① 部活動外部指導者との情報交換及び人脈形成の拡大 ① 広報部との連携及び制度の徹底
3. 小・中学生対象広報活動の強化 (1) 本校主催の大会等の充実  (2) 入試改革の達成 (3) 小学校・英語塾等の訪問強化	① コロナ禍をふまえZoom利用による英語暗唱大会の検討  ② 各塾主催イベント、模試、各種大会の誘致及び協賛 ① 新入生の成績及び追跡調査の活用 ① 本校周辺小学校・塾への訪問活動及び説明の徹底

(6) 学校評価

重点施策	具体策
1. 内部評価委員による学校評価の実施 (1) 生徒・保護者による学校評価アンケートの実施  (2) 内部評価委員による自己評価の実施	① 生徒、保護者対象のアンケート調査の実施と結果の検討 ② googleフォームを利用したアンケートの実施 ① 自己評価委員、全職員による評価の実施
2. 学校評価委員による学校評価の実施 (3) 学校評価委員による学校評価の実施	① 学校評価委員による評価の実施

#### 4. 尚綱大学短期大学部附属こども園

附属こども園では、「認定こども園教育・保育要領」等3法令の改訂等の趣旨を受け、教育・保育の目標達成をめざし尚綱らしさを生かした改善・充実をめぐるるとともに、在園児保護者と地域保護者の支援に努めるという2つの目的の達成に努めています。

まず、教育・保育です。「尚綱らしさ」を「子どもの発育にふさわしい自然の風情をそのままに生かし、環境の構成(教育的な意図)を創造し、子どもの心身の発達を助長すること」と捉え、今後もこの「尚綱らしさ」を軸に、保育者全員が温かい愛情に満ちた教育・保育を推進します。

令和2年度から3年度にかけて、「食育の計画」「給食の計画」等とも連動させた教育・保育の「全体的な計画(教育課程)」を完成させました。今後は、これを基に尚綱らしい教育・保育の実践段階に入ります。コロナ禍中においては、計画通りにいかないことも多く、その都度、教職員や保護者のみなさまのご意見と工夫・協力で乗り切ってきているところです。

次に、保護者支援です。日頃の教育・保育の充実やPTA(杉の子会)との協力と共に、在園児保護者にも地域保護者にとっても安心できる子育て支援を「どんぐりルーム」や子育て相談会等で推進しています。ここ数年、特別な支援を必要とする園児や配慮・支援を要する保護者が増えています。そこで、園児の安全性の確保や発達特性に応じた教育・保育の対応力の向上、療育との連携・協力、保護者の相談事業等はもとより、保育者数を確保することが急務となっています。

さらに、園児数の確保と収支改善の課題です。近隣地域は海外からの進出企業の影響等もあり、熊本市のベッドタウンとして人口が増加し少子化の影響は少ないものの、共稼ぎ家庭の急増に伴い1号園児が減少し小規模保育所の需要が増えています。本園では1号園児数を確保するために、従来の在園児に加えて卒園児の弟妹枠を設けましたが定員に満たず、令和3年度には保護者の需要に応じて「一時預り保育」の人数増を行い新2号園児の確保に対応しました。今後は、必要な教員数を年度当初に確保した上で、園児数の確保のために満3歳児の受け入れ人数増や、暫定的に2号・3号園児の定員120%までの受け入れ、将来的には定員の見直し等の対応に迫られています。

喫緊の課題は、保育者の確保です。全国的な保育者不足であり、本園でも保育者確保ができないと園児の確保もままなりません。国はこれまでの処遇改善事業に加えて「処遇改善臨時特例事業」を始めて保育者の待遇改善を図り確保をめざしています。本園でもこれらの事業を活用して国が求めているレベルの処遇にすることが急務です。

DX化推進は、動画を作成・配信したり、Zoomで登園自粛中の家庭とmeetingをしたり、一時預かり保育のメール受付等を行ないながら、保育者や保護者の利便性を高めています。さらに、ソフトの選定・導入等できるところから取り組んでいます。広報誌やHP欄の充実、地域社会や自治体・市町教委、小・中学校、諸機関との連携、学校評価を生かした教育・保育の改善にも取り組みます。

最後に、令和5年度からの4年制新学部新設を見据えて、教育実習の在り方の改善・開発の協議も始まっています。今後とも、学校法人としての社会貢献度を高め、附属園の使命として次世代保育者の育成に努めます。

##### (1) 教育・保育内容の改革と尚綱らしさの追求

重点施策	具体策
1. 豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり (1) 自然環境の整備 (2) 特別な配慮を必要とする園児への環境の充実	① 尚綱らしい豊かな自然を生かした環境を活用・創造・構成する教育・保育の実践 ① 特性に応じた環境の工夫と関わり、療育をはじめ諸機関との連携
2. 教育・保育内容の充実 (1) 教育・保育内容の改善 (2) 大学・短期大学部及び外部専門機関との連携強 (3) 主体的に自然を体験する学びの推進	① 「全体的な計画(教育課程)」の創造と不断の改善。感染症への対策 ② 動画作成・配信、Zoomの活用、デジタル教材の開発・導入 ① 幼児教育学科(音楽や絵画、体育等)及び食物栄養学科(噛むこと)との連携 ① 自発的、主体的に自然物と関わる体験の場と時間の確保
3. 生きる力を育む食育活動の推進 (1) 園児が主体的に関わる栽培と収穫活動 (2) 給食指導と食育活動が一体となった食育計画の作成 (3) 食育活動を中心としたカリキュラムマネジメントの作成	① 園児が主体的に栽培、手入れ、収穫に関わる場と時間の確保 ① 尚綱らしい「食育の計画」「給食の計画」の創造と不断の改善 ① 「全体的な計画(教育課程)」と関連付けたカリキュラムマネジメントの実践

##### (2) 園児の確保

重点施策	具体策
1. 園児募集に関する方法と広報活動の改善 (1) 園児募集方法の検討と実施 (2) 多様な広報活動の実施 (3) 保護者への説明会・見学会の強化 (4) 幼児教育無償化への対応	① 入園優先枠の実施と、0歳児から5歳児までの定員数の検討 ① HPのお知らせ欄、ポスター、パンフレット等の充実 ① 園の特長をPRするプレゼンと見学会の充実【コロナ禍中における工夫】 ① 3市町の情報収集と連携

##### (3) 子育て支援の充実

重点施策	具体策
1. 在園児保護者への子育て支援 (1) 講演会・子育て相談・援助の実施 (2) 延長保育・預かり保育の充実 (3) 特別支援教育の充実 (4) 健康管理の実施	① 教育講演会、定期的子育て相談会、個人面談、保護者交流会等【コロナ対応実施】 ① 申込システムのデジタル化の充実【コロナ感染を抑える保育の試行】 ① 発達相談会実施、3市町や療育施設との連携、研修会参加、担当教職員の増加 ① 健康診断や衛生検査の実施。園児の健康増進の啓発【コロナ感染症への対応】
2. 地域保護者への子育て支援 (1) 子育て支援室の利活用 (2) 尚綱子育て研究センターとの連携 (3) 保育体験の実施 (4) 子育て相談、外部専門機関の紹介	① どんぐりルームの開催、内容の充実【コロナ感染症数の推移に対応実施】 ① どんぐりルームでの講演会や相談会の実施 ① どんぐりルームで保育体験交流イベントを実施 ① 随時子育て相談と外部諸機関による相談会の実施、相談機関の紹介

## (4) 教育・保育の指導力向上

重点施策	具体策
1. 園内研修の充実 (1) 教育・保育要領に対応した研究保育の実施 (2) 特別支援教育・人権教育に関する研修の強化 (3) 子どもの主体性を育む環境会議の実施	① 研究保育と保育研究会を通じた園内研修の実施。感染症に対応した教育・保育の計画の検討と実施 ① 個別に関わる随時研修。特別支援教育士との連携。感染症に係る人権教育 ① 教職員が共通のねらい・内容・環境・配慮のもとで行う教育・保育の実践
2. 研修会・研究会等の積極的参加 (1) 学園・大学・短期大学部関連の研修会への参加 (2) 特別支援教育・人権教育の研修会への参加 (3) 実技研修会・その他の研修会等への参加	① 尚綱学園、大学・短期大学部が主催する研修会への参加 ① 県・市・町及び全幼研、全保研等主催の特別支援教育等への参加(リモート等) ① 自然活用や体験(健康、音楽、美術等)を重視した教育・保育研修への参加(リモート等)と、報告会の実施
3. 短期大学部との合同研修及び研究会 (1) 短期大学部との定期的、計画的な連携 (2) 実習生指導計画案の内容検討	① 園内研修への計画的な講師協力依頼 ① 幼児教育学科教員と本園教員との連携協力による指導の充実

## (5) 地域連携の拡充

重点施策	具体策
1. 地域交流の充実 (1) 地域老人会との連携強化 (2) 世代間交流の推進	① 行事への参加協力依頼(新春のつどい、美化活動等)【コロナ対応の必要】 ① 祖父母との交流依頼(新春のつどい、夏の夜の森の遊び等)【コロナ対応の必要】
2. 円滑な幼小接続の推進 (1) 職員による学校訪問と小学校職員に向けての公開保育の実施 (2) 就学に向けた連絡会の実施	① 小学校と相互訪問・研修、幼保小中連携カリキュラムの検討・作成【コロナ対応の必要】 ① 就学先小学校との連絡及び三市町教委との連携【コロナ対応の必要】

## (6) 学校評価の充実と活用

重点施策	具体策
1. 学校評価の活用 (1) 職員の自己達成目標と連動させた学校自己評価の実施 (2) 保護者アンケートの分析と活用 (3) 学校評価を生かした保育・教育活動の実施	① 教育・保育の改善と充実を図るために、学校(自己)評価を重点施策や要領の目標等に照らして実施 ① 教育・保育の改善と充実を図るために、保護者がわが子の姿を要領の目標に照らした学校(関係者)評価を実施 ① 評価を教育・保育の改善と充実に生かす会議の実施と実践